

# 地震にも台風にも強い

## 18日TIP住宅構造見学会

在来の木造建築に比べて、地震や強風に対して二倍以上の強さを発揮するという「TIP構法」を紹介する構造見学会が十八日、尾鷲市三木里町で開かれる。

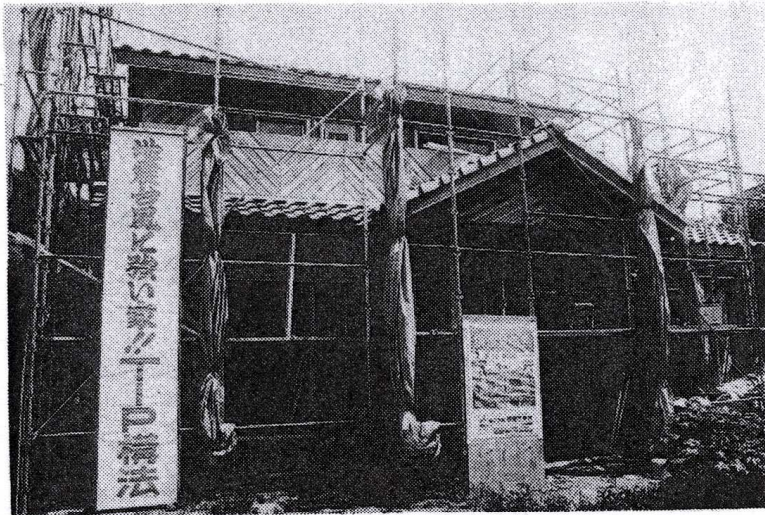
「TIP」は「三角形の接統用合板」を意味する頭文字。東京工芸大名誉教授の上西秀夫氏が二十年前の一九九〇年に開発した。在来軸組み工法で建てる木造住宅の外壁の

角の柱と土台、あるいはケタの継ぎ目の部分に、三角形の合板をクギで打ちつけ、さらに普通は水平に張る下地板を斜め四五度に張ることにより、下地板

のものが筋交いとしても働き、強度が増す。さらに、通し柱はホルダウンアンカーボルトで基礎にしっかりと固定。暴風で屋根が吹き飛ばされないように、屋根を支える垂木は一本ずつ金具で棟木に固定した。

住宅金融公庫の融資基準で定めた仕様の二・六九倍の耐震強度になることを確認している。阪神淡路大震災でも効果を発揮し、被害が少なかったこともあり、全国に広がっている。費用は普通の工法に比べて1〜2%高くなる程度。坪単価五十〜八十万円で建てられるという。このTIP構法の家

を建築中で、今回公開することになったのは東久文さん。京都に住んでいて、その紹介で同じ



TIP構法で建築している三木里の東邸

マイホームを建てるといった。施工は愛媛工務店(本社・京都府城陽市)。尾鷲市でTIP

構法の家を施工できる近隣の業者がなかったため、叔父の自宅を建てた同社が施工することになった。

TIP構法は地震ばかりではなく、台風をはじめとする暴風雨にも有効。日本TIP建築協会としても降水量が日本一の尾鷲で建築されることに注目し、視察を予定しているという。

愛媛工務店は同協会の副会長を務める。技

術セミナーを受けた協会員の優秀な職人が施工するので信用のある的確な工事を行うことができる。

東邸は三木里小学校の南側。見学会は午前十時〜午後五時。